自然の中での交尾

産卵

幼虫の食草のウマノスズクサの花。限られた場所にしか生えない毒草だ

庭のウマノスズクサに産みつけられた卵

孵化したての幼虫。卵の殻を食べている

幼虫群

本州から九州までは、4～9月ごろに2～3回発生する。オスは黒いがメスは明るい褐色（p.14上）。幼虫の食草は有毒のウマノスズクサ（p.12上右）で、その毒を蓄えるため鳥などの外敵に食われることがない。そんなジャコウアゲハの姿をまねたアゲハモドキ（p.14下）が擬態して生息している。

ジャコウアゲハのオスを捕まえると、淡いジャコウの香りがする。これはオスが下腹部の袋状の分泌腺から出すにおいだ。さらにほかのアゲハ類とちがうのは、蛹になると異様な形、色彩もさることながら、その背中のでっぱりが口紅のような赤色に染められ、体も後ろ手にしばられた女の人にも似ていることだ。そこから、昔の皿屋